38年度 追加予算 一億八千五百万円 計上

学校林設置条例など二十一件

第29回定例市議会

十月末日の改選を ひかえた現職議員 にとって、最後の 議会となる九月定 例市議会は、九月 三十日に開会、市 長、助役から提案 理由の説明のあと 会期を十月九日ま での十日間（本会 議六日休会二日、 委員会二日）と決 め、休会に入いった。

十月二日本会議を再会、席中の学校林設置条例など追加二議案の説明があり、翌三日の両日にわたって一般質問が行なわれ、職員の勧奨退職、消防団の組織の整備、保育所の定員制、公明選挙についてなど、その他市政全般にわたって質疑応答がなされた。

四、五日の両日は議案の質疑がなされ、それぞれ委員会に附託された。翌六日は休会、七、八日委員会が開らかれ、議案陳情などを審議し、最終日の九日は、委員長報告ののち追加更正予算など十七議案、専決処分事項の報告など報告議案四件、陳情、請願二十二件（五件不採択）を採択、議決し閉会した。

なお、こんど追加更正された一般予算の追加額は、六千八百十四万四千八百五十円で、累計五億八千八百四十五万四十三円と大きくふくれ上がってきた。

また、上水道特別会計は、六万二千円追加され、千三百四十三万一千七百五十五円となった。

一般会計の内訳つぎのとおり（　）内は追加額

〔才入〕　市税一五二、三三五（八、〇九八）　地方交付税一一九、一七四（六、七五四）　公営企業及財産収入三六、五六四（一、五六四）　分担金及負担金一〇、八五五（一）　使用料及手数料（一）　国庫支出金二一七、五七一（九、一三〇）　県支出金三〇、八八九（一四、六二八）　寄附金一七、五六〇（一四、六七二）　繰入金五、四〇〇（一）　雑収入七〇、三六六（三、〇〇七）　市債一四、〇〇〇（一〇、三〇〇）

〔才出〕　議会費一一、四四〇（二〇）　市役所費七四、一〇二（一、二三三）　消防費七、二八六（一、二七）　教育費五九、四五九（一、一三〇）　社会及労働施設費一八四、〇六五（一、一八）　保健衛生費七、三三六（七三八）　産業経済費四三、六七八（二九、七二九）　財産費四〇、六七五（一、六一八）　統計調査費一一八、一七〇（三七、四七〇）　選挙費三、八一四（六一）　公債費一九、一〇一（一）　諸支出金九二、六九九（一、九五八）　予備費四三三（一五）

議会への陳情と請願

＝多い市道改修など＝

九月の定例市議会によせられた市民からの要望、請願は十六件を数えた。

そのうち市道の改修などの問題が一番多く六件、プールの建設二件変ったものに交通事故防止についての陳情など、それぞれ紹介議員を通じて提出された。

そのうち採択すべきものと認められたものはつぎのとおり。

▼長岡小のプール建設＝長岡小PTA

▼岡豊小、中のプール建設＝岡豊町橋村清澄ほか

▼医師報酬並びに校医手当の増額について＝南国市医師団長北村真三郎

▼保育所設備の改善について＝保育所保護者連合会長門田論ほか。

▼公営住宅の敷地について＝野中一区地区婦人会長藤田玉喜ほか。

▼交通事故防止について＝定林寺中沢清水ほか

▼市道（関ー笠松線）改修について＝関、尾谷潔ほか。

▼市道（中の丁線）拡巾改良について＝後免町、池本泉ほか。

▼市道編入（白木谷署所ー高木線）拡巾について＝白木谷、岩原栄松ほか。

▼市道（桑の川線）の拡巾について＝桑の川、門田政利。

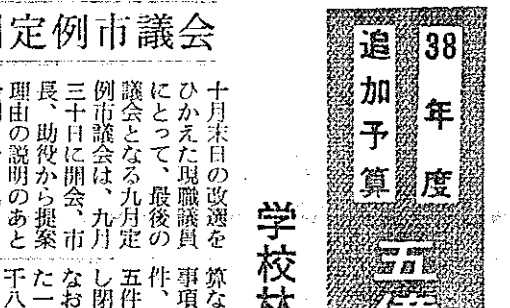
▲てい防（国分川丹宮せき下流）の改修について＝西島、中沢亀喜ほか。

▼市道（中の町、横町、宇田に至る）舗装について＝東崎、今井泰男ほか

▼用水路（西谷より下足ケ谷に至る）の改良工事施工について＝稲生、福重幸一ほか。

▼水路（香長中運動場建設の際の約定書による）のつけかえ並びに市道（学校裏農道）編入について＝伊達野溝潤利保ほか

なお、同定例市議会で前回より継続審議されていたもの十一件も併せて審議された。



不安すっかり解消

旧国分川 西島堤防復旧

さる六月四日の二号台風で国分川左岸の西島堤防が長さ二十六メートル、高さは五メートルで、堤頂の幅が二m余ある堅固なもの。なお同所が欠潰すれば隣接の大津村、高知市東部などが被害区域になるとおそれられていた。

＝写真は復旧した西島堤防

第1回県民体育大会

市から66名参加

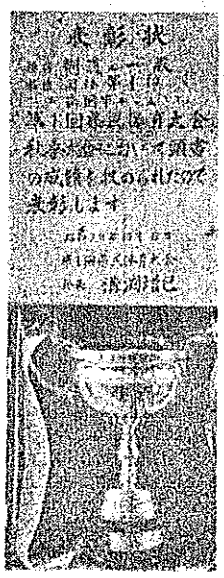
剣道（一般）が優勝

県民の国体といわれる、第一回県民体育大会秋季大会は、十月六日午前九時から高知市設総合グラウンドを中心に七会場で開かれ、市から全種目に出場、六十六人の選手が活躍した。

まづ剣道の部では、川田医院長を大将とするチーム、一般の部で優勝、相撲は香長中学校が中学校の部で第二位、卓球は一般が第三位と、それぞれ輝やかしい成果を収めた。

しかしバレーボール、ソフトボール、柔道、剣道、卓球など、青年の部は振わず今一段の練習が望まれた。

＝写真は表彰状（上）と優勝カップ



領石支所移転

―登記所跡へ―

市役所領石支所は、現在植野公民館を使用中だが、高知地方法務局領石出張所の閉鎖に伴って建て物の払い下げを受け、十一月初め移転することとなった。

払い下げ価格三十六万円、建て物面積五十二坪、敷き地百九十二坪というからいわばただ同様。

なお今後、公民館の借料（月五千円）はいらなくなるわけ。

転入、転居の届出は
14日以内に
市民係窓口課へ
住民登録

タバコは
市内で
買いま
しょう!!
タバコ消費税で
市の収入に

随想リレー

九死に一生

昭和三十四年頃の思出である。

旧後免町時代、北部の製炭業者が化学燃料の進出により、製炭業がだんだん不振となってきた。そこで、化学燃料と対抗するには製炭業者の自覚と、中間商人の利潤を目や耳で勉強しようと、大阪市場を調査することとなり。製炭業者の町議二人と、業者六人とともに高知港からの関西汽船を利用することにした。

家を出るころは、薄ぐもりの風のない旅行日和であったが、高知港を出航するころから風が出始め、小雨までパラツキかけてきた。船中で夕食はいりませんかと頼ねたが、誰しも経験のある船室独特の臭いに、落付いてからというので、酒二合瓶五本を買い、湯呑で

表彰状（上）と優勝カップ

た私しは後生大事に膝で押えていたが揺がひどくなるので溢しては勿体ないと、チビリチビリ始末をしながら、みんなに褒めてみたがウラメシそうに見ながら、かぶりを振るだけで、ものをいう元気はなく。二人、二人胃液を出している人もあった。手結沖ごろには船は木の葉のように揺れ、船客で坐っているのは私しだけしかなく、他は、ゲロゲロを越えて生死を踏み越える地獄絵そのままの状態であった。ボーイは、汚物処理に追われており、私も一行の始末をして、残りの酒を全部始末したが、私し自体も少しいやな気分になりかけ甲板にあがった。外は漆の如く真暗闇で、大きな波が甲板を洗っている。その時二等船室の上で船長と船員たちが話合っていた。この船は沈没しはしないかと不安になり恐くなってきた。船室に帰りみんなに話をしたが不安に戦き、言葉も出ないようになっている。安芸沖あたりで船長が船室にみえ、ただいま僚船南海丸のSOSを受信した。これ以上進み室戸岬を廻ることは危険であるから本船は高知港に引返すが、絶対心配はないので、きわがず落付いていて貰いたい旨の宣告があり、みんな生きた気持はしなかった。船酔で身体が動けなくなっているので、ところどころで念仏を唱えている声が聞えてくる。船長の機転で船は羽根沖で二時間かかって、廻船できたが、私したちが最も心配していた廻船の時の横倒しもなく、無事に浦戸沖まで引返すことができた。

しかし、ここでまた、潮流の関係で浦戸湾にいることができず、船はエンヂンをかけたまま、約二時間、立往生をし、約八時間の地獄の責から放された午前二時漸く高知港に引返すことできた。

一同高知で一晩泊り、翌日の南風号の汽車便で上阪し、無事所期の目的を果すことができた。

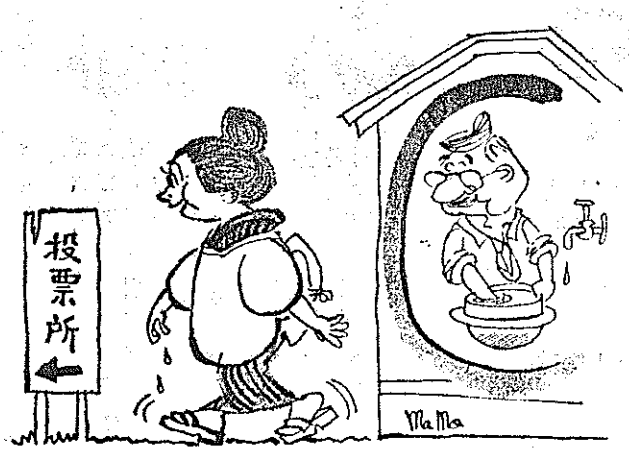
船中での思出は妻や、子供たちのことで内心みな無事を祈っているばかりであった。人間の幸、不幸は何時どんな処で起きるか、はかり知れない。こうして無事命があったのは、船長の鋭敏な処置と、船を見るたび感謝している。どうかみなさんも常日頃の災難に充分ご用心下さい。

次回のバトンは、山本社会教育課長さんへ

筆者のよこがお
国沢守道（39）
産業経済課長
大正13年8月、甘枝の産、昭和14年長岡高小卒、16年9月長岡農会書記を振り出しに22年7月同村助役を退職、26年10月長岡村書記に復し、29年後免町厚生課長産経課長、34年市産経課長補佐、35年福祉事務所次長37年4月現職となる。
東奔西走なかなかの活動家、世話もできるご人である、わけても酒態をあまり姿にあらわさぬ達人でもある。
家庭に、康子夫人（36）と二女美智子（7）ちゃん、長男雅弘（4）君がある。

10月31日は

市議会議員選挙の投票日です



エプロンで母も一票ひと走り

森吉正照

投票は　午前7時から　午後6時まで

正しい選挙で、明かるい市政